



先を見通しにくい時代の舵取り役

総務省大臣官房企画課
課長補佐

大越 諭 OHGOSHI Satoshi

平成 20年 4月 総務省採用
同 行政評価局政策評価官室
平成 21年 4月 同 人事・恩給局人事評価係
平成 22年 2月 内閣府公益認定等委員会事務局総務課
平成 23年 1月 総務省人事・恩給局総務課職員団体係
併任 人事・恩給局給与第一係
平成 23年 7月 内閣官房行政改革推進室
平成 25年 7月 総務省総合通信基盤局電波部移動通信課主査
平成 27年 7月 同 公害等調整委員会事務局総務課企画法規担当課長補佐
平成 29年 4月 消防庁予防課危険物保安室課長補佐
併任 特殊災害室
令和 元年 7月 内閣法制局第一部参事官補
令和 4年 7月 現職

日々アップデート

皆さんが使っているスマートフォンのソフトウェアも、新しいサービスが導入されたり、セキュリティを改善する観点で日々アップデートされていると思います。同じように、行政は、新たな政策を立案したり、様々な問題を解決するために制度を見直すなどのアップデートをしています。

多様化する国民の価値観・ニーズに向き合いつつ、少子高齢化、人口減少、感染症の流行等前例がないことが次々発生している中で、行政サービスの質を確保し、向上させていくこと(アップデートすること)が求められています。

総務省職員の役割

その中で総務省は、地方自治、行政評価、統計等行政全体の基盤を担っており、例えば、行政手続の根幹となるルールを設けたり、政策を改善する観点から他省庁の施策に指摘をしたり、主要な統計を実施したりしています。また、総務省職員は、総務省以外の組織に向向することもあり、政府の重要課題の一つである社会全体のデジタル化の推進、国の行

政機関の組織・定員面の資源配分などの政策において中心的な役割を担っています。

将来の行政のアップデートを担うのはあなたかも

私自身の経歴を振り返っても、総務省において、政策評価や公務員制度等の各府省に共通する制度を扱ったり、通信事業者や消防関係者と接しながら社会状況の改善に携わったりしてきました。また、他省庁等に出向し、事業仕分け、独立行政法人改革に携わったり、法律問題に意見を述べる事務を行ったりしてきました。前例がない作業も多く、悩むこともありましたが、周囲の方々の協力を得ながら業務に取り組み、社会をよりよくすることに携われていることにやりがいを感じています。

また、過去には総務省に「総務省の働き方改革チーム」(写真参照)が設置され、省内の職員の働き方について提言を行う機会があり、私も参加しました。こんな風に若手職員も意見を言える機会があるのも総務省の魅力だと思います。

皆さんも将来の行政をアップデートする役割を担ってみませんか。



この写真の「27日」の下にるのが筆者



趣味はスキューバダイビング。特に沖縄の海には何十回も潜っています

学生時代、「社会を良くしたい」という漠然とした考えがあり、公務の道を志したものの、どの行政分野も魅力的に映り、決めかねている中、広く行政分野全般に関わりたい、行政全体のパフォーマンスを上げてより良く機能するようにしたいという思いが芽生え、総務省の門を叩くことにしました。

広く行政の資源配分を考える

私は今、独立行政法人制度の運用や、独立行政法人の新設改廃を通じた資源配分というミッションに携わっています。

独立行政法人制度は、公共上の見地から確実に実施されることが必要な事務・事業を国とは別の法人格を持つ主体に担わせ、自律的な業務運営を確保するなどによってより良い行政サービスを提供することを目的として、中央省庁等改革の際に導入されたものです。

制度の適切な運用を通じて独立行政法人がその機能を十分に発揮できる環境を整えることで、我が国の行政サービスの質の向上に取り組んでいます。また、ある政策をどのような役割分担で実施するかといった観点から、個々の独立行政法人が担うべき業務の内容や体制について、府省横断的な目線で最適な資源配分を考えています。

政策の是非を問いつける

行政に求められる役割を適切に果たしていくためには、その実施体制を整備するだけでなく、そもその政策の是非を問いつけるなければなりません。以前所属した行政評価局は、府省横断的な目線で政策の是非を考え、社会の実情に適ったものへと軌道修正すべく、各府省に改善を促していく役割を担っています。

社会の大きな変革を捉え、行政が向かうべき方向性を模索しつつ、個々の政策がどうあるべきかを真正直に考える機会を得たことは、私の財産であると感じており、モチベーションにもつながっています。

むすび

今、少子高齢化・人口減少に直面する我が国は岐路に立っています。これまでの様々な制度が前提としていた価値観が変わっていく中、行政の在り方を見直し、アップデートしていくことが求められています。

これまで私が関わってきた仕事は、必ずしも、個別の政策分野を究めるといったスタイルではなかったように思います。しかし、個別の政策の直接的な当

事者でなかったとしても、社会全体の課題に関心をもち、その解決のために行政がどうあるべきかを俯瞰的に考え形にしていける作業は、広く行政全体に裨益するものであり、やりがいを感じています。

このような立ち位置で仕事をするのも面白いのではないのでしょうか。



人事院研修で訪れた中国武漢・黄鹤楼にて



休日は電車好きの子どもと鉄道イベントへ

これからの行政を切り拓く

総務省行政管理局副管理官
(独立行政法人制度総括・特殊法人総括担当)

榊 康晴 SAKAKI Yasuharu

平成 22年 4月 総務省採用
同 自治行政局選挙部選挙課
平成 22年 8月 熊本県総務部市町村総室
平成 23年 4月 熊本県総務部財政課
平成 24年 4月 総務省行政管理局管理官付
(独立行政法人総括・特殊法人総括担当)
平成 26年 7月 内閣府規制改革推進室主査
平成 28年 7月 内閣官房内閣人事局係長(機構総括担当)
平成 29年 7月 内閣官房内閣人事局参事官補佐(機構総括担当)
平成 30年 2月 総務省統計改革実行推進室参事官補佐(政策統括官付)
平成 30年 7月 同 行政評価局企画課課長補佐
令和 2年 4月 同 自治行政局地域政策課特別定額給付金室課長補佐
令和 2年 9月 同 大臣官房秘書課秘書官
令和 3年10月 現職